

2023年度 上期決算記者会見資料

対象期間：2023.4.1-9.30

2023年11月9日

2023年度 上期連結決算のハイライト

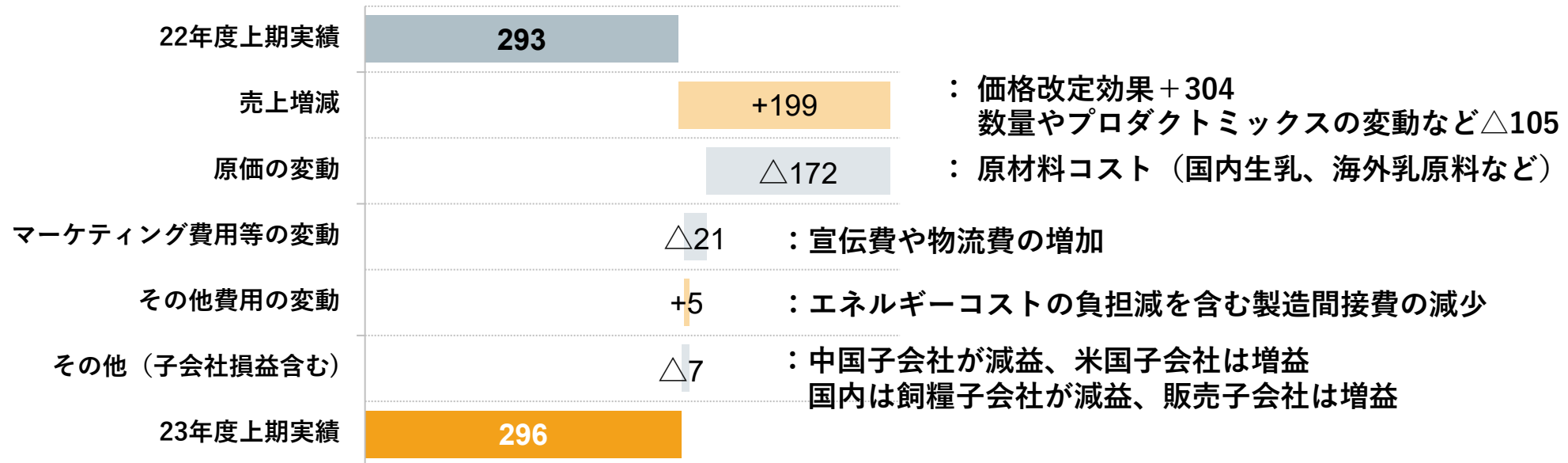
(億円)	22年度 上期実績	23年度 上期実績	23年度 上期実績		23年度 上期計画
			前年同期比	計画比	
売上高	5,175	5,460	+5.5% +285	+0.4% +20	5,440
うち、海外売上高	567	636	+12.1% +68	△7.9% △54	690
営業利益	431	444	+2.9% +12	+38.9% +124	320
営業利益率	8.3%	8.1%	△0.2pt	+2.3pt	5.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	333	279	△16.4% △54	+39.6% +79	200
E P S	118.52円	100.13円	△18.39円	+28.86円	71.27円

- 売上高・営業利益は食品、医薬品ともに増収増益
- 四半期純利益は大幅減益。持分法による投資損失の計上や税金費用の増加が主な要因
- 計画比では利益は1Qの好調さを維持し、大幅に上回った

食品：2023年度 上期決算概要

(億円)	22年度 上期実績	23年度 上期実績		23年度 上期計画	
		前年同期比	計画比		
売上高	4,206	4,454	+5.9% +248	+0.9% +40	4,414
営業利益	293	296	+1.2% +3	+14.6% +37	259

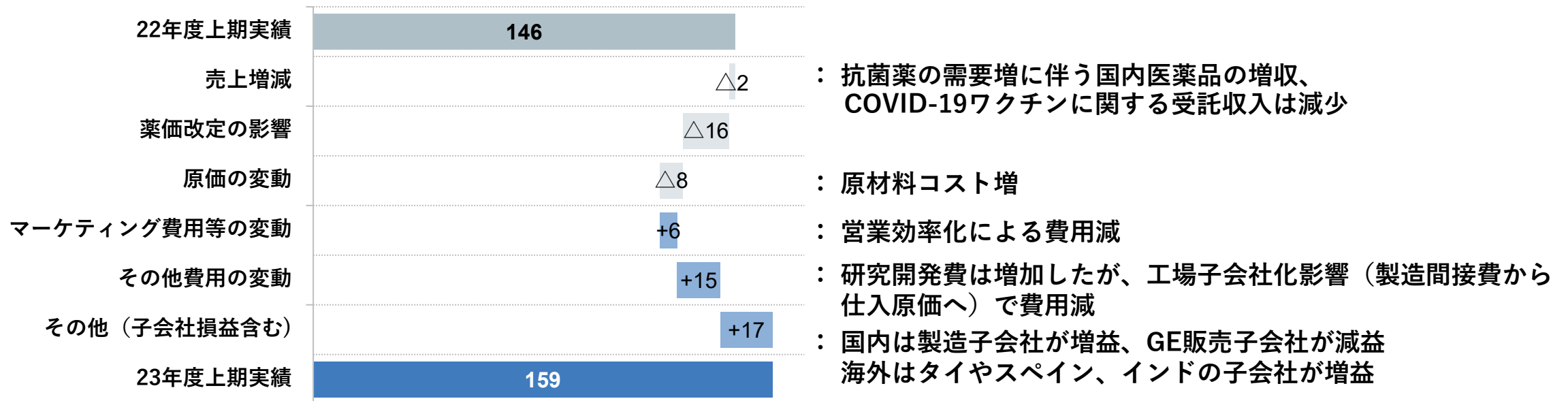
営業利益 増減分析



医薬品：2023年度 上期決算概要

(億円)	22年度 上期実績	23年度 上期実績		23年度 上期計画	
		前年同期比	計画比		
売上高	971	1,008	+3.8% +36	△2.0% △20	1,029
営業利益	146	159	+8.5% +12	+117.8% +86	73

営業利益 増減分析



2023年度 下期・通期連結見通し：修正あり

(億円)		23年度 上期実績		23年度 下期計画 (11月修正)		23年度 下期計画 (5月当初)		23年度 通期計画 (11月修正)		23年度 通期計画 (5月当初)	
			前年同期比		前年同期比				前期比		
連結	売上高	5,460	+5.5% +285	5,524	+1.4% +78	5,580		10,985	+3.4% +363	11,020	
	営業利益	444	+2.9% +12	355	+10.4% +33	460		800	+6.1% +46	780	
	親会社株主に帰属 する当期純利益	279	△16.4% △54	230	△36.0% △129	310		510	△26.5% △184	510	
食品	売上高	4,454	+5.9% +248	4,456	+0.1% +6	4,456		8,911	+2.9% +254	8,870	
	営業利益	296	+1.2% +3	313	+18.1% +48	301		610	+9.3% +51	560	
医薬品	売上高	1,008	+3.8% +36	1,072	+7.1% +71	1,126		2,081	+5.5% +108	2,155	
	営業利益	159	+8.5% +12	60	△13.8% △9	177		220	+1.3% +2	250	

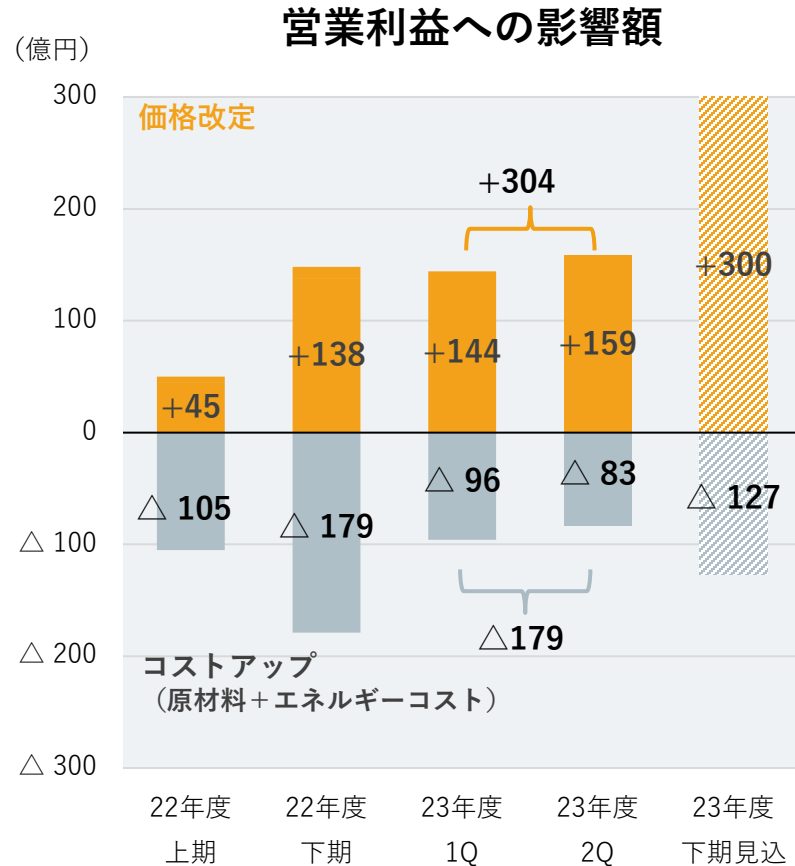
● 通期の売上高は減額修正、営業利益は増額修正

- 食品：下期売上高を据え置き。営業利益は当初計画以上の水準を目指す

- 医薬品：下期は売上高・営業利益ともに減額修正。ARCT-154の貢献見込み額を除外した影響などによる

● 通期の当期純利益は当初計画を据え置き

食品：コストアップへの対応とコア事業の売上回復

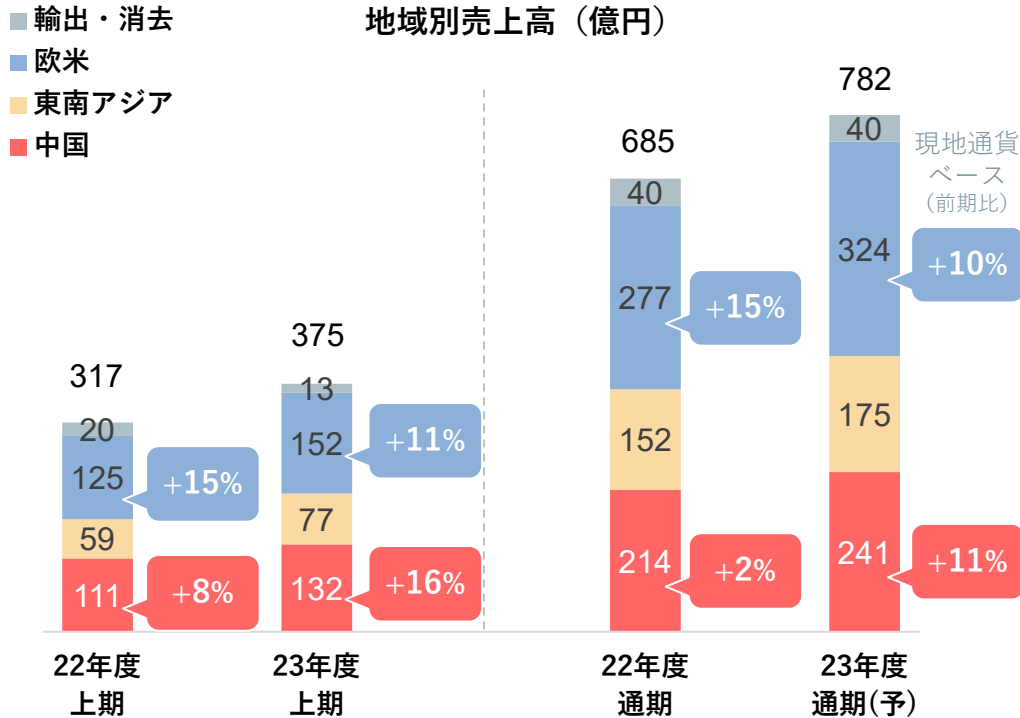


- 価格改定によりコストアップを吸収
- 付加価値を訴求することで改定後の価格は定着、数量も回復傾向

23年度の主な価格改定

23年3月	アイスクリーム	+4-9%
4月	チョコレート・グミ	+5-10%
	ヨーグルト	+4-6%
	プロバイオティクス	+4%
	チーズ	+6-13%
	ザバス (粉末)	+4-5%
	ザバスマルク	+2-7%
5月	粉ミルク	+約8%
	市販流動食	+4-9%
6月	チョコレート・グミ (一部)	+8%
8月	ヨーグルト	+1-3%
	牛乳	+4-11%
10月	チョコレート・グミ	+4-24%
12月	クリーム	+約4%
	バター	+約7%

食品：海外事業の成長加速



● 欧米

- 米国：付加価値の高い明治ブランドと、リーズナブルなスタウファーブランドがそれぞれ伸長
- 欧州：ダノン社ブランドのキューブタイプ粉ミルクは展開国を拡大中

● 中国

● 菓子

- 板チョコが好調。パッケージ変更、重点商品として集中した販促・普及が奏功
- 秋冬に向けて新商品を発売、店頭訴求も強化



● アイスクリーム

- 現地開発品を中心に好調、価格改定も実施
- 夏場の天候不順や市場在庫の増加が懸念材料



● 牛乳・ヨーグルト

- 業務用は計画以上で推移。おいしさや品質の高さが支持され、カフェチェーンを中心に取引拡大
- 市販用は前年クリアも、新規開拓が計画通り進まず
 - ✓ 商品政策・チャネル政策を見直し。現地の人財を活用
 - ✓ 現地の商品開発センターを軸に、独自性・差別性ある商品開発も急ぐ

医薬品：日本におけるCOVID-19ワクチンの開発状況

	開発企業	モダリティ	取り組み状況
1	第一三共 東大医科研	mRNAワクチン	23年8月 成人向けブースター用ワクチン（起源株対応）承認 23年9月 12歳以上向けブースター用ワクチン（オミクロン株XBB.1.5系統対応）承認申請
2	塩野義製薬 感染研／UMNファーマ	組換えタンパクワクチン	22年11月 成人用初回免疫用・ブースター用ワクチン承認申請
3	Meiji Seika ファルマ	mRNAワクチン （レプリコン）	23年4月 成人用初回免疫用ワクチン承認申請 23年6月 成人用ブースター用ワクチン承認申請 23年9月 成人用ブースター用のP3試験（変異株対応ワクチン）開始 （起源株およびオミクロンBA.4-5株対応2価ワクチン）
4	K Mバイオロジクス 東大医科研／感染研／基礎研／ Meiji Seika ファルマ	不活化ワクチン	23年10月 小児用P3（発症予防効果検証）試験を準備中 （オミクロン株XBB.1.5系統ワクチン）
5	VLP セラピューティクス	mRNAワクチン （レプリコン）	23年4月 ブースター用のP1/2試験（変異株対応ワクチン）を開始 23年12月 ブースター用のP3試験（変異株対応ワクチン）を開始予定
6	アンジェス 阪大／タカラバイオ	DNAワクチン	22年9月 開発中止

ARCT-154
ARCT-2301

KD-414

2023年度計画

(億円)	22年度 通期実績		23年度 通期計画 (11月修正)		23年度 通期計画 (5月期初)	
		前期比		前期比		前期比
売上高	10,621	+4.8% +490	10,985	+3.4% +363	11,020	+3.8% +398
営業利益	754	△18.8% △174	800	+6.1% +46	780	+3.4% +25
営業利益率	7.1%	△2.1 pt	7.3%	+0.2 pt	7.1%	△0.0 pt
親会社株主に帰属する当期純利益	694	△20.7% △180	510	△26.5% △184	510	△26.5% △184
EPS	247.39円	△56.24円	182.89円	△64.5円	181.73円	△65.65円
1株当たり配当金	90円	+5円	95円	+5円	95円	+5円
配当性向	36.4%	+8.4 pt	51.9%	+15.6 pt	52.3%	+15.9 pt
ROE	10.0%	△3.5 pt	7.0%	△3.1 pt	7.0%	△3.0 pt
ROIC	6.3%	△2.1 pt	6.5%	+0.2 pt	6.5%	+0.2 pt
設備投資額	721	△22.5% △209	650	△10.0% △72	628	△12.8% △92
営業CF	850	△33.3% △425	585	△31.2% △265	600	△29.4% △250
フリーCF	482	△51.7% △516	40	△91.7% △442	100	△79.3% △382

10期連続
の増配

健康にアイデアを meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。